

2年道徳 道徳的価値に向き合い、考えを広げ深める子どもたち

指導者：大森 果歩

研究の実践

1 主題「温かい心で ～ぐみの木と小とり～」【親切、思いやり】

2 授業の実際

(1) 心の声を語り合う役割演技を通して道徳的価値に迫る

大勢の嵐役の子童が、両手を縦に横に振ったり立ち上がったたりしながら、ビュービューという効果音とともに嵐の日の天候状況を演出する。しかし、小とり役が飛び始めると、小とりさんが飛べるようにという優しさからか嵐が弱まってしまった。そこで、「さっきの嵐役良かったね。もっと嵐巻き起こせる？」と問いかけると、今度は教科書やシートを持って風を送ったり腕を振り回したりと勢いを増した。それが「すごい嵐で、飛ぶか届けに行くか迷った」という小とり役の心の声を引き出した。「途中で飛ぶのをやめようと思いませんでしたか？」と小とり役に問うと、一様に「思わなかった」と即答。なぜなら、「りすさんが病気で心配。早く治してあげたいから。」というりすのことを思う気持ちが表出された。小とり役A児は、りすに届けるぐみの実を持つのを忘れていた。そこで私が「ほら、忘れていたよ」と何気なくぐみの実を渡した。するとA児に「ぐみの木さん、ありがとう！」と言われて、私ははっとした。私自身がぐみの木役になっていたことに、その時初めて気付かされた。ぐみの木役ならば、もっと役になりきって子どもたちと一緒に演じる世界に入り込むのも面白かったかと振り返る。

小とり役B児は嵐の中、飛ぶかどうか頬杖をつきながらじっと考えている。暴風はかなり躊躇している様子のB児に私は思わず「頑張れ～！」と声をかけていた。すると、B児は意を決めたかのように進み始めた。一步一步づつゆっくりと。あまりにも臨場感あふれる見事な演技にまた私の方が「わあ～」と感嘆の声。飛びながら小とりが思っていることをつぶやいていいよと言っておけばよかったと自省した瞬間でもあった。そんなB児は、嵐の中も飛び続けた小とりの心情を「自分もぐみの木さんに助けてもらったから、助けを返したい思い」と吐露。この発言から、りすのことを思う気持ちの他に、ぐみの木に対しての思いも内包されていることに気付いた子どもたち。新たな学びが学級全体に広がった場面であった。

最後に、ぐみの木に「ごしんせつはわすれませんか」と言われて飛び立つ小とりを全員で再現。C児はその小とりの気持ちを「いいことをしたな。りすさんも小とりさんも、ぐみの木さんにありがとうって言いたいんじゃないかな。」と語る。なぜかと問うと、「親切にしてもらったから」と。そして「親切は、みんなが幸せな気持ちになる！」と納得の表情。役割演技を通して人物の心情を考えることにより【親切、思いやり】の道徳的価値に迫る話合いとなった。



(2) 親切的行動の背景にある相手を思いやる温かい心に気付く

小とり役になりきって嵐の日に飛び続けた心情を語るD児。そこからスイッチが入った。「友達じゃないのに届けてくれたの？」と問うと、「ぐみの木さんにぐみの実を食べさせてもらったから、そのお礼にりすさんを元気にしようと思った！」と嵐の中も飛び続けた小とりの心情を共感的に理解。「こんな小とりさんのこと、どう思った？」と全員に問いかけると、D児は「りすさんの体調を考えて、飛んであげたことがすごい！」とはつらつと答える。「自分が風邪を引くかもしれないのにいいの？」と問い返すと、「そうではなくて、りすさんのために」と主張を強め、自分のことより相手のことを思う行動だと説明。「もし、小とりさん飛ばなかったらどうなる？」と問うと、「りすさんはずっと病気のままだったかもしれない」「でも、小とりさんのおかげで助かった！」と、また小とりに思いを馳せる。「そんな小とりさん、どんな人？」という問いかけには、「やさしい人」という意見が多数。D児は、「人思いだね！」とつぶやいた。「自分思いじゃないの？」「うん。人思い。」と小とりの優しさは、相手を思いやる行動だということに気付き、学級全員が考えを深める場面となった。

展開の終末では、小とりはぐみの木に「ご親切はわすれませんか」と感謝される。「あれ、このご親切ってどんなこと？」と問うと、「りすさんにぐみの実をあげた、届けたこと」という返答。「どんな思いの行動のことを親切っていうのかな？」と本時迫りたい道徳的価値【親切、思いやり】に焦点化し、一人一人がウェビングの図に新たな考えを書き足した。そこには、「人思いなこと」「人のことを考えて大切にすること」「みんなが嬉しくなること」などそれぞれの児童が道徳的価値についての理解の幅を広げていた。

D児は「自分のことだけでなく他の人のことも考える」と自分の価値観を更新していた。本実践を通して、親切的行動は「みんなが笑顔になる、温かい心になる」と児童自身が気付き、価値ある学びを獲得できた。このような個性あふれる児童が、これからも小とりのように相手を思いやり、温かい心で羽ばたいてくれることを私自身、切に願っている。

